

新型コロナワクチン いち早く

学内接種を開始

本学は6月25日から、学生・教職員のほか、習志野市立の幼稚園、小・中・高等学校の教育関係職員などを対象に、新型コロナウイルスワクチンの職域接種を開始した。学生・教職員の健康と安全の確保に努めるとともに、感染拡大防止を願う社会的要請に応じて学外の人々にも可能な限り助力した。7月5日で1回目接種の全日程が大きなトラブルもなく終了した。(2面に「接種までを写真で追う」)



6月25日から始まったワクチンの学内接種(津田沼校舎2号館で)



6月23日、到着したワクチン第1陣と瀬戸熊理事長



初日の6月25日、ワクチン接種を受ける学生

「早く接種できてよかった」

学生たち

▽接種自体はインフルエンザと変わらない。ウイルスワクチンという気構えもなく臨みました。接種後もいつもと変わりなく感染防止対策をしています。(情ネ3年)

▽若い世代への接種が進むことで、気づかないうちに高齢者にうつすことを少しでも防げれば、と思う。(未ロボ4年)

▽会場でのソーシャルディスタンスなど安心して接種できた。副反応などの心配も友達同士で話

る仕組みとなっている。申請まで短期間、しかも初の試みとあって文科省と厚労省の間だけでも情報がかみあらず、手探り状態。この間、本学は一方人にもほめる学生の接種スケジュールの作成、学生への呼びかけや接種希望調査など連日、膨大な作業に追われた。申請が承認されてからも関係者間に積極的に働きかけを続けた結果、6月14日には、最短で25日にワクチン接種が可能となる連絡がきた。18日にはワクチン保存用の冷凍庫が納品され、あとはワクチンの

納品を待つばかりとなった。ワクチンは武田/モテルナ社製で、1回目接種分は6月23日に到着。無事冷凍庫に収められる規模接種の様子は、NH

初日、朝9時から集まった学生たちは、あらかじめダウンロードした予診票を持参。番号札を張った椅子に座って、予診票のチェック▽問診▽接種▽アレルギーなどの異変に備え現場で約15分経過観察——と順調に進んだ。県内初となる大学での大規模接種の様子は、NH

7月2日から習志野市内の県立高等学校(津田沼高等学校、実籾高等学校)および習志野特別支援学校の教育関係職員へのワクチン接種が始まることから、1日には千葉県教育長の富塚昌子氏が接種会場を視察に訪れた。1回目接種は7月5日まで1万1300人が接種し、終了した。2回目は7月23日から8月2日まで終了する予定。

題になったが、それでも受けたほうがいいと決意しました。(機械3年)

▽両親がもう接種してきているので、自分にも順番が来てよかったと思っただけ。特に痛みもなく、今はほっとしています。(情ネ3年)

▽美家には祖父母もいるため、毎日外に出ていける自分がワクチン接種できたことで安心材料になると思う。(情ネ4年)

▽アルバイトを掛け持ちして、不特定多数の方々と接する機会があるため、早く接種できて

心理的に少し楽な気持ちになりました。(未ロボ4年)

市内の人々

▽基礎疾患があり心配していたので、いち早く接種できることは本当にありがたいことです。家族はまだ接種できず、予約も取れない状況です。(小学校職員)

▽大学構内に初めて入りましたが、誘導も分かりやすく、ゆったりとした環境でしたので、リラックスして接種できました。とにかく、早く接種できてよかった(小学校職員)

接種に向け大学の総力結集

新型コロナウイルス流行後、本学は、キャンパス正門に検温所を設けるなど感染対策を徹底したうえで一部対面授業を再開した。その後も全学生・教職員へのPCR・抗原検査の実施などを取り入れてきた。今回も、企業や大学の職域接種を開始するとの政府発表を受けていち早く実施を決断した。本学が職域接種に取

り組んだのは、ワクチン接種により学生とその周辺の人々への感染リスクを減らし、早く安全安心な学生生活に戻ってほしいとの願いからであり、また、地域へ接種の加速を図ればと考えたため。6月10日、学内で学生・教職員を対象にワクチンの職域接種を行うと発表した。

ワクチンの確保は、文部科学省に事前に会場や接種予定人数、医療関係者の人数など詳細な計画を連絡し、了承された後に厚生労働省に申請を行い、承認後に必要数のワクチンが大学に届けられる仕組みとなっている。

と、瀬戸熊理事長はじめ関係者一同は、納品が不確定な中、ワクチンが到着したことに安堵し、胸をなで下ろした。

接種会場は津田沼校舎2号館2階フロア、新習志野校舎体育館に設営を進め、受付や予診ブース、接種ブースなどを次々準備し、両会場受付には除菌ブースを設置した。リハーサルを繰り返しては配置を調整し、開始間際まで確認作業が続いた。

当初、朝9時から集まった学生たちは、あらかじめダウンロードした予診票を持参。番号札を張った椅子に座って、予診票のチェック▽問診▽接種▽アレルギーなどの異変に備え現場で約15分経過観察——と順調に進んだ。県内初となる大学での大規模接種の様子は、NH

Kニュースやフジテレビでも放送された。当初の接種対象は、本学の学部・大学院生約1万人と教職員ら約2千人▽市内の教育関係者ら約1千人——の計約1万3千人。26日には新習志野校舎で寮生の接種を行い、順次、学生・教職員、習志野市立の教育関係職員ほか習志野商工会議所関係者などへも接種枠を広げた。

NEWS CIT

ニュースシーアイティ 2021

千葉工業大学・入試広報部
〒275-0016 千葉県習志野市津田沼
2丁目17番1号
TEL 047(478)0222 FAX 047(478)3344
<https://www.it-chiba.ac.jp/>
毎月1回(8月を除く)15日発行

号外

写真で追う 新型コロナワクチン 学内接種まで

新習志野会場

6月18日、ワクチン保管用の冷蔵庫が納品され着々準備が進む



体育館全面に床シートをはり、ブースや椅子などが整った会場（21日）



注射針納品



設営状況の確認作業（22日）

ワクチン到着、学生寮へ（23日）



会場入口に設けられた除菌ブース



接種会場のサインボードを設置、誘導看板も次々と（23日）

津田沼会場

6月21日、ワクチン納品の前に温度設定を再確認する



津田沼会場でも設営が着々と進む（22日）



ワクチンの第1陣が到着（23日）



納品されたワクチンを冷蔵庫に移し替え



ワクチンが収まった冷蔵庫と 瀬戸熊理事長



接種の流れをリハーサル（24日）



リハーサルで再度、手順などを確認し接種開始へ（24日）